

臨床（教育）現象学／現象学的質的研究

- 大塚 類 (ruippeco@gmail.com)
- 参与観察／フィールドワークによってエピソードを収集し、現象学の知見に基づき（現象学的スタンスで）考察する。
- **週に1～数回訪問して子どもたちとかかわる「ボランティア」として、児童養護施設や公立小学校に十数年入ってきた。不登校になっていく、いじめられていく、学習についていけなくなっていく子どもの姿を見てきた。被虐待、発達障がい、低学力／低学習意欲、他者関係の齟齬・不和、不登校傾向、優等生の繊細さなど、さまざまな〈生きづらさ〉を抱える子どもたちについて、従来とは異なる「見立て」を提示することを目指してきた＝あたりまえを疑う**

コメント

➤ **こども基本法 第二条**

この法律において「こども」とは、心身の発達の過程にある者をいう。
→年齢にかかわらず「こども」とあるという観点。小中高高校生、大学生、社会人、保護者も？

➤ **宇地原さんから提起された観点について（自分の経験より）**

テーマ1（子どもにとっての回復の場の意味）とテーマ3（児童福祉の人材確保のあり方）の連関・循環

- ・インタビュー調査で明らかにしたいのは、当事者も明確に言語化できていない〈場の意義〉
- ・支援者の専門性。省察（自分自身の捉えなおし）と、自他の客観化と、セルフケア

テーマ2（学校におけるケアが可能になるには / 学校の役割の変化について）
学校プラットフォーム化の可能性と限界

- ・小学校と中学校の分断
- ・学校で朝食を提供する試みが日本では展開しにくいこと